

取組み報告書

令和6年度 福山市介護職員等負担軽減支援アドバイザー派遣事業

【社会福祉法人 明翠会 特別養護老人ホーム 明翠園】



一般社団法人
日本福祉用具供給協会
中国支部 広島県ブロック

施設の概要

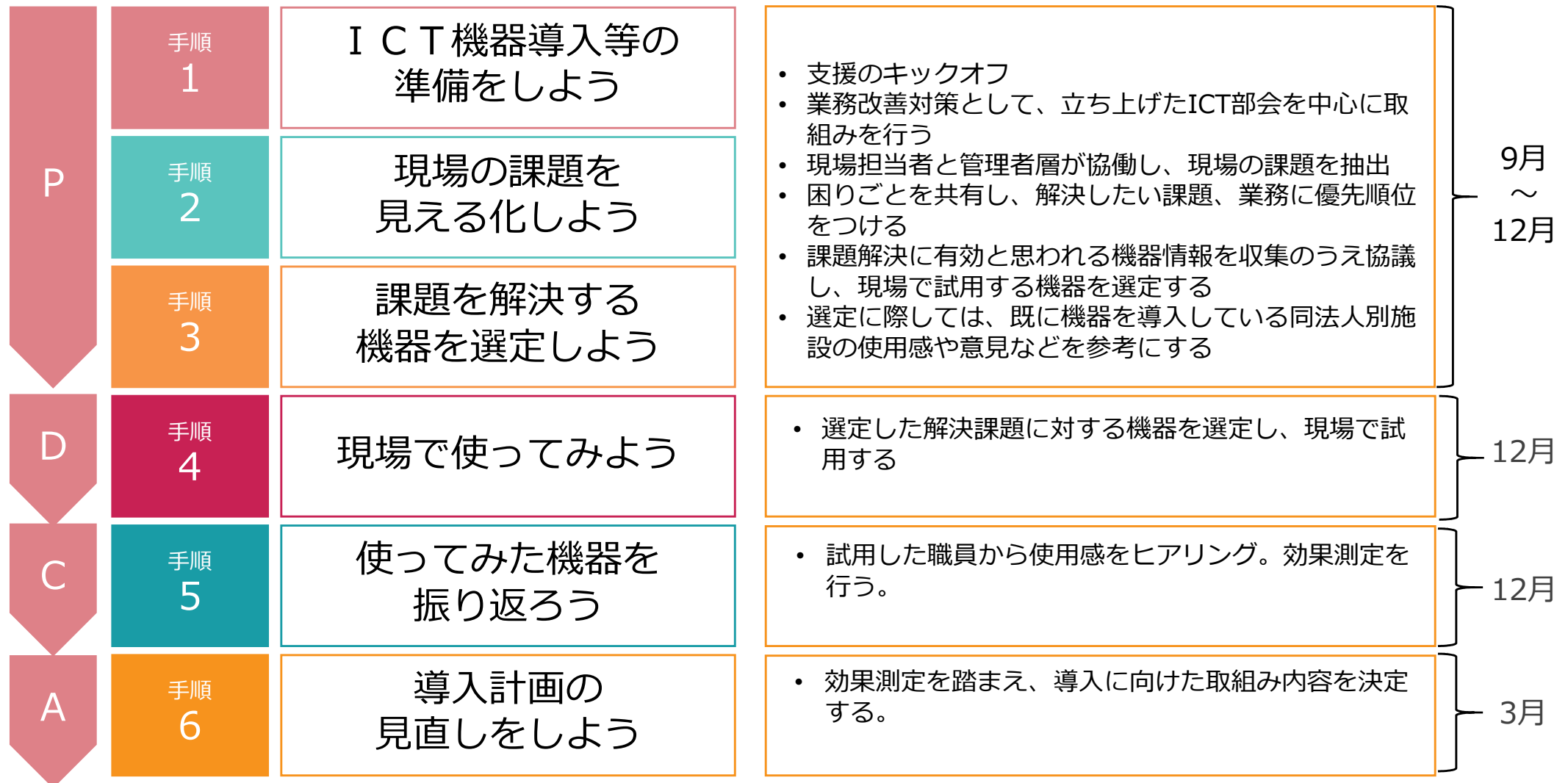


施設名	特別養護老人ホーム 明翠園
施設種別	介護老人福祉施設
定員	86名
開設日	1997年12月
所在地	福山市柳津町486番地

取組みの流れ

取組の流れ

具体的な取組み内容



手順1 ICT機器導入等の準備をしよう

実施内容

- キックオフとして、取組みメンバーを選任。
- ICT部会の主要メンバーにて構成した。
- 現状何に困っているのか、忌憚ない意見を出して

■ ICT推進メンバー（アドバイザー派遣事業時）

部署名	役職	人数
特別養護老人ホーム	施設長	1人
	介護主任	1人
	介護職（正職）	1人
	介護職（正職/特定技能実習生）	2人
	介護支援専門員	1人
	事務員	1人



手順2 現場の課題を見える化しよう

実施内容

- 各現場で起きている課題、困りごとを抽出。
- 日々の業務について現場職員に聞き取りアンケート調査を行う。

見える化された課題

- 外国人材が7名おり、記録に残す際の日本語独特の言い回しに苦慮している。
- 記録業務を別の日本人職員が代わりに行っており、負担がかかっている。
- 申し送りを口頭並びにノートがあるが、別の書式にも残されている等、転記が多くシステムを上手く使いこなせていない。
- 職員間でスムーズに意思疎通が取れておらず、一部の職員が「知らない」ことが多い。

(考察)

記録システムを導入しているが、それを十分に活用することができておらず、転記が一部残っている。業務オペレーションの見直しや、機能を追加導入することで、この課題を解決することができないか。

手順3 課題を解決する機器を選定しよう

今回選んだ解決したい課題

- 記録、コミュニケーションを軸に機器を選定、試用する。

その理由・背景

- 業務負荷が特にかかっているものが記録業務と職員間コミュニケーションという意見が多くみられ、現場、経営層とがともに了承した。

課題に対する現状

- 外国人材の記録を日本人スタッフが代わりに行う等、記録業務が負担となっている。
- 申し送りが行き渡っておらず、職員間での情報共有がうまく出来ていない。

解決した後の姿（目標）

- 音声入力機能を活用することで、職員の記録業務負担を削減することができる。
- 既存のシステムについて理解を深めることで業務を効率化し、一層の連携が図れる。

手順4 現場で使ってみよう

実施内容

- 現在使用している基幹システムの追加機能である、Voice funを試用する。
- モバイル、P Cともに1週間程度試用し、使い勝手や有効性を判断する。

体験機器（音声入力支援システムVoice fun） URL : <https://www.ndsoft.jp/product/voicefun/>

音声入力支援システム

Voice fun



手順5 使ってみた機器を振り返ろう

使用した結果（所感）

- ICT部会を中心に、現場職員へヒアリング。

集まった現場の声

- 外国人職員より。
「うまく発音できない部分もあるため、その後の入力修正が必要。」
「キーボード入力の方が良い。」
「言葉で入力できることはすごい。」
- 日本人職員より。
「名前や介護用語の漢字変換に対応できるので凄いが、言葉を間違えた際に二度手間。」
「パソコン前でのみ使用可能なため、パソコン入力できる人からすると必要ない。」

（結果）

Voice funの機能だけでは施設のニーズを満たすことはできない。
別のテクノロジーの導入を検討する。

手順6 導入計画の見直しをしよう

振り返りを踏まえた今後の活動

- 近々実装されるAI搭載の「ほのぼのVoice」の導入を視野に、再度試用を依頼し、検証を行う。



全体の総括（導入チームから）

ICT推進に向け、部会を立ち上げておりましたが、施設内職員のみでは対応できることが限られていました。この度、アドバイザーへの相談、また、意見もいただくことができ、今後、施設内で活動していく上で、話の進め方を知ることができました。

この度は一つの事業所内での話ではありましたが、他部署にもこの経験を共有し、より良い生産性の向上へ繋がっていきたいです。

まとめ

全体を通してのコメント（アドバイザーより）

令和6年度 福山市介護職員等負担軽減支援アドバイザー派遣事業にエントリーいただき、誠にありがとうございました。本取組みが始まる以前から、ICT部会を立ち上げられるなど、積極的に取組まれていらっしゃいます。
是非、この流れを止めることなく、推進していただきたと思います。
「こういう課題があるから、こういうことが必要」と、目的と手段が明確であるからこそ、実効性のある取組みになっていると思います。
繰り返しになりますが、是非ご継続いただけますようお願いいたします。



一般社団法人
日本福祉用具供給協会
中国支部 広島県ブロック